

## 森のニュース2「ナラ枯れ」について

### 1 ナラ枯れとは

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシという体長5mm程度の小さな虫が媒介する「ナラ菌」という病原菌によって、コナラ・ミズナラ等のナラ類や、シイ・カシ類が集団的に枯れる被害のことを言います。

この被害は、日本各地で発生しており、神奈川県内においては、平成29年度に初めて被害が確認されました。そして、平成30年度は、被害区域が拡大するとともに、被害量が増加することが懸念されています。

### 2 ナラ枯れが起こる仕組み

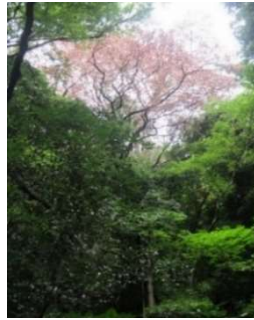
6月から8月頃に、昨年度の被害木の樹体内から脱出したカシノナガキクイムシの成虫が、集合フェロモンに誘引されて集中的に健全な樹体内に穿入します。

そして、この虫と一緒に樹体内に入った「ナラ菌」の作用により、樹木が水分等を吸い上げることが出来なくなるため、枯れてしまいます。

### 3 ナラ枯れの特徴

ナラ枯れの特徴は、主に3つあります。

・7月から9月頃の夏の時期に葉が紅葉する✕



・幹に直径1.5mmから2.0mm程度の多くの孔がある↓



・幹の根元に大量のフラス(木くずと虫の排泄物が混ざった粉状のもの)が堆積している↓



### 4 被害対策の必要性

ナラ枯れにより、枯れた樹木の幹が倒れたり、枝が落下すると、通行人等の人身への被害や、家屋、道路、電線等への被害が生じることにより、県民の方々の生活に大きな影響を及ぼす恐れがあります。

よって、このような被害を起こさないためにも、被害の拡大を防止する対策の実施が必要です。

### 5 被害対策の方法

カシノナガキクイムシは、樹体内に入った後に産卵します。卵からかえった幼虫は成長し、越冬後に蛹化、羽化して新成虫となり樹体内から脱出します。

そこで、被害の拡大を防止するための対策として、樹体内から新成虫が脱出するまでの間に、被害木の焼却や、被害木への薬剤の注入等を実施し、樹体内の虫を駆除する方法等が実施されています。

### 6 情報提供のお願い

ナラ枯れは、被害の規模が小さいうちに対策を適切に実施することにより、被害の拡大を防止することが出来ます。

しかしながら、ナラ類や、シイ・カシ類は、神奈川県内の山地から都市部にかけて、様々な場所に存在していることから、被害がどこで発生するか分かりません。

このため、県内各地の皆様から、被害に関する情報提供をいただくことが、被害の拡大を防止するために、とても大切であると考えております。

そこで、ナラ枯れの疑いのある樹木を発見された場合、または被害情報を入手された場合は、横浜川崎地区農政事務所、各地域県政総合センター並びに水源環境保全課まで御連絡くださいますようお願い申し上げます。

(神奈川県環境農政局緑政部水源環境保全課森林保全グループ)